

教育事業名	平成29年度教育事業				
	<b>ふれあい通学合宿</b>				
事業の趣旨	規則正しい生活をする事により、自分で生活と学習のリズムを作れるようになるとともに、新しい環境・人間関係の中でも、積極的にコミュニケーションをとることができる子どもの育成を目指す。				
対象者	室戸市内の小学校5・6年生				
実施期間	平成30年2月17日(土)～平成30年2月24日(土)7泊8日				
参加者/定員	35名/50名				
活動プログラム					
事業の内容	2/17 (土)	2/18 (日)	2/19～22 (月)～(木)	2/23 (金)	2/24 (土)
朝		6:00 起床・洗面 6:50 朝食 8:20 自然の家発 9:40 飛脚レース スタート 11:30 閉会式	6:00 起床・洗面 6:50 朝食 7:15 自然の家発	6:00 起床・洗面 6:50 朝食 7:15 自然の家発	6:30 起床・洗面 7:30 朝のつどい 朝食・清掃 退所点検 振り返り 9:50 閉会式・退所
昼	13:55 吉良川小着 コース下見 15:20 自然の家着 15:30 開会式 オリエンテ ーション 16:00 アイスブレ イキング	12:30 公園で昼食、 レク 14:00 移動 15:30 野外炊事	学校	学校	
夕	17:00 タベのつど い 18:30 学習 19:00 仲間づくり 20:00 班会・入浴 21:00 就寝準備 21:30 就寝	夕食 片付け 18:30 学習 19:00 仲間づくり 20:00 班会・入浴 21:00 就寝準備 21:30 就寝	17:00 タベのつど い 17:15 夕食・洗濯 18:30 宿題 19:30 レクリエーシ ョン等 20:00 班会・入浴 21:30 就寝	17:00 タベのつどい 17:15 夕食 18:15 キャンドルファイア 振り返り 20:30 入浴 21:30 就寝	
<p>2月17日(土)</p> <p>室戸市内4つの小学校から5・6年生35名が本年度のふれあい通学合宿の参加者として決定し、全員が一堂に会する予定だったが、インフルエンザに罹患している者、スポーツの試合や練習等のために参加が遅れる者を除いた33名でのスタートとなった。今年参加者が通う4校はそれぞれ進学する中学校が校区内にあり、行事等の交流が少ない。これから始まる1週間への不安と緊張からか、表情が硬い参加者が多かった。しかし、吉良川の町並みを一緒に歩き(翌日の飛脚レースの下見)、アイスブレイキングや夕食、班対抗のレクリエーションをしているうち、緊張感の中に少しずつ笑顔が見られるようになってきた。</p>					
					

② 2月18日(日)



日曜参観日のため登校しなければならない学校の児童を除き、当施設の地元で開催される、「吉良川町並み飛脚レース」に参加した。自然の家チームの他に、所属している野球や陸上のチームで参加する児童もあり、お互いに健闘を祈ってのスタートとなった。地域の方々の温かい見守りの中、土佐漆喰の白壁と水切り瓦の残る美しい町並みを見ながら関所まで移動して、問題に取り組んだりお接待を受けたりした。どのチームも設定タイムに近づくよう、作戦を立てて臨み、良い成績を残すことができた。

閉会式後は市内の公園に移動し、お弁当を食べ、ボランティアリーダーと一緒に「けいドロ」などをして体を思い切り動かし楽しく交流した。風はやや強く肌寒さを感じたが、元気に走り回った児童たちは上着を脱いで笑顔で外での活動を満喫していた。

自然の家に着くと野外炊事場に移動して夕食のカレーライス作りが始まった。学校に行っている友達の分もあり作業は多くなったが、声を掛け合って協力しておいしい夕食を作ることができた。1日中外で元気に活動していたので、どの班の児童も残すことなくもりもり食べていた。食後も残った灰を集めたり鍋をきれいに磨いたり、班の中で分担して手際よく片付ける様子が見られた。

夜は静かに学習した後、通学合宿中の自分や班のめあてを書いた。「早寝早起きをがんばる」「友達と仲良くする」等の発表があり、翌日からいよいよ始まる通学に向けて、持ち物だけでなく心の準備も整えているかのようだった。



③2月19日（月）～22日（木）



この一週間、元気に通学するために、規則正しい生活を実践した。通学合宿の初めから5分前には集合し、夜も早めに就寝することができていた。

学習習慣を身につけるために、毎日1時間の学習の時間を設けた。学習時間中は静寂の中で集中して学習に取り組み、分からないことがあっても友達やボランティアリーダーにすぐ聞くのではなく、自分で教科書を見直したり辞書をひいたりする等、自ら学ぶ習慣づけを重視した。宿題が早く終わった児童にはさらに自主学習に取り組みせたり、読書をさせたりして、学習時間は全員が静かに座って過ごすことができていた。

学習の後は大縄跳びやコミュニケーションゲームなどで楽しく過ごす時間を30分間確保し、仲間づくりを意識した活動に充てた。前半、特に女子児童は同じ学校同士でかたまって行動していたが、後半になると、学校が違っていても楽しそうに話したり遊んだりする姿が見られた。



③ 2月24日（金）


最後の夜ということで、食堂でお別れパーティをした後、キャンドルファイアを行った。

そして、静粛な雰囲気の中、班ごとに輪を作って一週間を振り返り、自分が成長したと感じることや印象に残ったことを伝え合った。

翌日に試合等があるため、6人が宿泊することなく帰宅した。友達を見送るため正面広場に全員が集まり、別れを惜しみ、名前を呼びながら手を振る姿





	<p>が見られた。</p> <p>④ 2月24日(土)</p> <p>朝食後、一週間友達と生活を共にした宿泊棟の清掃を丁寧に行った。暖かく晴れ渡った青空の下、今の気持ちや一週間の思い出をみんなの前で発表した。</p> <p>友達やボランティアリーダーとの別れを惜しみながらも、みんな笑顔で満足した表情で帰っていたのが印象的だった。</p> 
<p><b>事業の成果</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 室戸市内の学校の大部分が少人数学級なので、限られた友人関係の中で生活をしている児童が多いが、今回の事業を通して子どもたちの新たな交友を生み出すことができた。初めは同じ学校の児童同士でくっついたり男女が分かれたりと、どこかぎこちない関係が見られたが、合宿後半になると積極的に関わろうとする様子や明るい笑顔がいろいろな場面で多く見られた。</li> <li>・ 参加者の挨拶の声が小さいことが気になった。そこで、職員やボランティアリーダーが大きな声で挨拶したり、気持ちの良い朝の挨拶ができた班や児童を朝食時に発表したりして、意識させるようにしたところ、後半には朝から元気な声が聞かれるようになった。</li> <li>・ 今年は地域の行事である「町並み飛脚レース」に出るため1泊増やしたことで時間にゆとりが生まれ、公園に遊びに行ったり班で協力してカレーライスを作ったりすることができた。平日は下校時刻がまちまちで、自由に遊べる時間も少ないので、合宿の初めにこのような交流の時間を長くとれたことは大きかった。</li> </ul>
<p><b>事業の課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この合宿が始まる前にインフルエンザに罹患した児童が2人いた。1人は水曜日の夜から最後まで参加することができたが、月曜日から参加した児童は、火曜日学校で体調不良を訴えそのまま帰宅したので一晩だけの参加となり、班の友達と交流する時間も十分とることができなかった。この時期の開催は、教育委員会や各学校もインフルエンザ等の感染症を心配している。また、半数近くの児童がスポーツの練習や試合、中学受験などの理由で全日程参加することができず、35名全員が揃う日が一日もなかった。通学合宿の開催時期については所内だけでなく室戸市とも話し合い、再考する必要があると考える。</li> </ul>
<p><b>参加者の感想</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新しい友達がたくさんできてうれしかった。</li> <li>○ 自分から声をかけ、友だちになることができた。</li> <li>○ あまり交流のなかった他校の人と話せて楽しかった。</li> <li>○ みんなと話し合ったりレクをしたりふれあったりして楽しかった。</li> <li>○ 「おはよう」「ありがとう」などの挨拶が積極的に大きな声でできるようになった。</li> <li>○ 朝6時に目が覚めるようになった。これからも規則正しい生活を心がけようと思う。</li> <li>○ バランスの良い食事ができた。</li> <li>○ 自分で何でもしようと思えるようになった。</li> </ul>